

福井市自然史博物館

博物館だより

FUKUI CITY MUSEUM OF NATURAL HISTORY NEWSLETTER



満開のソメイヨシノを訪れたヒヨドリ（足羽山 撮影：学芸員 出口翔大）

福井の自然史情報

ヒヨドリと足羽山の桜

ヒヨドリは、2018年の調査において^{あすわさんざん}足羽三山で最もよく確認された鳥です。足羽三山では一年中見られ、春や秋には別の場所から渡ってきた群れも見られます。甘いものが大好きで、春には花の蜜を吸うため桜の木によくやってきます。



当館マスコットキャラクター
「シジュウオ」

中面に関連記事があります。

春季
企画展

あすわさんざん
足羽三山

トリペディア

あすわやま はちまんやま おさごえやま
足羽山・八幡山・兎越山の野鳥大百科

福井市街地にぽっかり浮かぶ足羽山、八幡山、兎越山の「足羽三山」は、市民憩いの場として愛されているだけでなく、野鳥にとっても重要な生息環境となっており、これまでに100種を超える野鳥が記録されています。本展では、足羽三山で確認された野鳥の剥製70種100体以上を一堂に展示し、調査で分かってきた足羽三山の野鳥の特徴や、足羽三山でバードウォッチングを始めるのに役立つ情報を紹介します。



市街地にぽっかり浮かぶ足羽山

▼ヤマガラ



▼メジロ



◀ルリビタキ



内容の一部紹介！

足羽三山
野鳥の特徴その1

渡り鳥がたくさん

足羽三山では一年間に50～60種の野鳥を確認することができますが、一年中見られるのはヤマガラやメジロなど12種類くらいで、残りのほとんどは渡り鳥です。冬越しや子育てのためにやってくるルリビタキやキビタキなどのほか、長旅の途中で一時的に足羽三山で休憩するマミチャジナイなどもいます。

展示では、足羽三山で多くの渡り鳥が見られる理由や、そのほかの特徴を紹介します。

野鳥観察に おすすめの時期

それはゴールデンウィークGW頃か10月の下旬です。渡り鳥がやってくるため、一年間で最も多くの種類の野鳥が確認されます。また木の葉が落ちる冬の間も、見通しがきくので野鳥を見つけやすくおすすめです。そのほか、展示では野鳥観察におすすめのルートなども紹介します。



春に渡ってくる
◀キビタキ

晩秋に渡来する▶
マミチャジナイ



南京虫退治顛末記

保科 英人 (福井大学教育学部 准教授)

2019年8月、私の家に南京虫が発生しました。この年の6月に海外調査に出かけたので、その際にトランクに紛れ込んだのかもしれませんが。8月中旬以降、夜間に急に痒みを感じては目が覚めることの繰り返しでした。ある日、小さい虫が寝室をノソノソ歩いていました。そして、この虫を捕まえて、ようやく自分を苦しめていた虫が南京虫であると判明したのです。

この南京虫の正式和名はトコジラミと言います (写真1)。カメムシに近い仲間で、体長は約5~8mm程度の昆虫です。トコジラミは人家に忍び込み、昼間は畳のすき間や本棚の裏に隠れています。夜間、人が寝静まったら活動を開始し、人の血を吸います。トコジラミに血を吸われると、激しい痒みを伴います。

戦前の日本の新聞には、トコジラミ退治のための、あの手この手の広告が多く掲載されていました。裏を返せば、戦前の日本人はそれだけトコジラミに苦しめられていたことがわかります。

戦前の日本で猛威を振るったトコジラミは、戦後殺虫剤の普及で姿を消しました。しかし、完全に絶滅したわけではありません。また、日本人が旅行で海外から意図せずトコジラミを連れて帰ったり、外国人旅行客が日本に持ち込んだりして、近年都市部を中心に被害が出ています。

筆者の経験で言いますと、トコジラミは痒みを与えるとの直接的被害もさることながら、「いつ刺されるかわからない。夜もおちおち眠れない」との精神的な圧迫感が強いのです。トコジラミが家に発生すると、生活が根底から崩されると言っても過言ではありません。戦前の先人たちは良くも悪くも、トコジラミと折り合いをつけて、半ば共生していたのですが、現代日本人はそこまで堪え性を持ち合わせていません。

困ったのはこれからです。全国の自治体の衛生害虫対策部署のホームページを見ますと、「トコジラミは専門業者に駆除を依頼しましょう」と書いてあることが多いのです。しかし、悲しいかな、福井市は地方都市。害虫駆除会社がもともとそんなに多くないのです。さらに電話帳や企業ホームページには「トコジラミを退治します」と書いてあるにもかかわらず、実際に電話をすると、「うちはトコジラミを扱っていない」と断られた会社が複数ありました。結



写真1：トコジラミ

局、ある会社に駆除をお願いしました。

さらに自分でも作戦を立てました。トコジラミの餌は鳥獣の血だけです。よって、やつらに餌を食わさず、飢え死にさせればよいのです。そこで、トコジラミを発見して以降、自宅で寝るのを止めました。ワンルームマンションを近くに借り、12月中旬まで、毎晩そのマンションに寝に行きました。自宅ではトコジラミの隠れ場所となる布団やカーテン、ソファを全て廃棄し、新しい物に買い直しました。ノズル付きの強力な殺虫剤を買ってきて、部屋の隅々に噴射しました。結局、この方法でトコジラミの根絶に成功しました。一切合切合わせると、トコジラミ対策に30~40万円のお金がかかったはずですが。

誰しもが物流とは無関係でおれないため、どの家庭でもトコジラミが発生する可能性があります。そして、福井県内に害虫駆除の専門業者が少ないことを考えると、トコジラミに対して、最悪の場合自力対応をしなくてはなりません。長期間、寝る時は自宅から出て、トコジラミを飢えさせるとの私の作戦は有効でしたが、誰しもが採りうるわけではありません。しかし、早く見つけて対策を打てたからこそ、私はトコジラミの根絶に成功しました。当たり前結論で、面白くも何ともありませんが、トコジラミ対策で重要なのは早期発見につきます。





最近の博物館

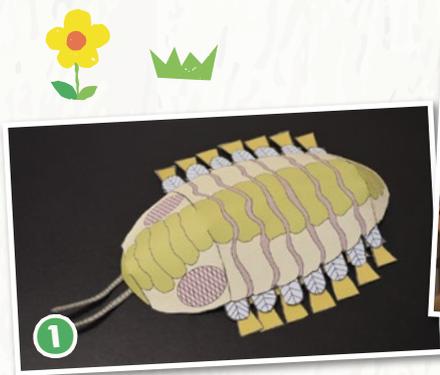
コロナ禍での博物館

去年は、これまでとは大きく変わった1年となりました。COVID-19（新型コロナウイルス感染症）が世界的に流行し、日本でも3月にはすべての学校が休校。緊急事態宣言にあわせて当館も4月から5月にかけて臨時休館となり、3月末に始まったばかりの企画展も一時休止することに。5月の緊急事態宣言解除後も、消毒液やアクリル板の設置、ハンズオン展示の封鎖や撤去など、感染防止のための対応に追われました。

外出自粛が求められる中、博物館では新たな取り組みを始めました。それが、インターネットを利用した博物

館コンテンツの発信です。Twitterでは「#エア博物館」などのハッシュタグを用いて、過去の行事で使用した塗り絵やペーパークラフトを自宅で楽しむことができるように画像を公開。足羽山の動植物や常設展の展示物を紹介する動画のYouTubeへの投稿、企画展の展示内容を紹介するウェブ図鑑を博物館のウェブサイトに掲載するなども行いました。8月からは、Instagramでも収蔵資料などの写真を公開しています。

現在、博物館は一部ハンズオン展示を制限しつつも、ほぼ通常通り開館しています。しかし、COVID-19の流行は未だ収まらず、外出するよりも自宅で過ごすことが推奨される状況には変わりありません。また、インターネットを利用することは、実物の標本を直接見る・触るという体験こそできないものの、博物館まで足を運ぶよりもはるかに少ない労力でそのコンテンツに触れることができます。コロナ禍と呼ばれる現状に限らず、今後より広く、多くの人に博物館の持つコンテンツを知ってもらうためにも、インターネットによる発信が重要になってくるでしょう。（学芸員 有馬達也）



- ① ウェブ上で公開中のペーパークラフト
- ② 足羽山の生物を紹介する動画
- ③ 令和2年春季企画展の内容を紹介するウェブ図鑑



Twitter
twitter.com/fukuishizenshi



Instagram
[instagram.com/fukuishizenshi](https://www.instagram.com/fukuishizenshi)

《あとがき》

今号では、春季企画展をはじめとする話題を取り上げました。足羽三山は多くの人々にとって身近な公園でありながら、様々な種類の野鳥が見られる自然豊かな場所でもあります。あの時見かけたあの鳥は何だろう、そんな疑問や好奇心に答えてくれる展示となっています。

また、昨年から続くCOVID-19の流行によって生活様式がこれまでと大きく変わり、無用な外出をせず家の中で過ごしたいという人も多いことでしょう。こうした需要に応え、今後もインターネットを利用したコンテンツの発信を積極的に行っていきたいと考えています。

（有馬）

《交通案内》

- 【電車】
- JR 福井駅から徒歩 30分
 - 福井鉄道福武線 足羽山公園口駅・商工会議所前駅 各徒歩 20分
- 【バス】
- 京福バス：清水グリーンライン(74系統) 足羽山公園下バス停(あじさいの道登る)・不動山口バス停(蔵島神社登る) 各徒歩 10分
 - コミュニティバスすまいる：西ルート(足羽・照手方面) 愛宕坂バス停 徒歩 10分

《ご利用案内》

- 開館時間 ● 午前9時～午後5時15分(入館は午後4時45分まで)
- 休館日 ● 月曜日(祝日は開館)、祝日の翌日、年末年始
- 入館料 ● 高校生以上 100円(20名以上の団体は半額)
 中学生以下、70歳以上、障がい者および付添の方は無料

